

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

保険者名	第8期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	特定健康診査、後期高齢者医療健康診査、がん検診などの受診を勧奨し、その結果から保健指導により生活習慣病予防など健診結果の改善等、要介護状態への予防を努めていく。	【1】健康づくり・介護予防の推進 ①各種健診・検診・保健指導等の実施	①特定健康診査の受診率 (R5) 受診率 45 ①後期高齢者質問票や健診結果、医療情報等に より栄養指導を受けた人数 (R5) 人数 50	①特定健診受診率 (R3) 受診率 38.1 未受診者へ年2回勧奨通知。40～50歳代の受診者には地域商品券進呈。また、受診率が低い地区は個別訪問で受診勧奨を実施。 ①栄養指導人数 (R3) 人数 30 75歳以上の方に対するの質問票(全数)実施。また町の傾向把握のため、地区を限定し低栄養に関する全数調査を実施。月1回栄養相談を実施。	◎	①受診率の向上のため住民への受診勧奨を行いながら、受診率低い地区には個別で受診勧奨を行うなど、細かな活動で受診勧奨を進めていく。 ②低栄養に関して住民の傾向を把握することにより、適切な栄養指導方針を検討し、食生活改善を周知していく。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	外出機会の減少や生活不活発によるフレイル予防対策として、健康管理や健康づくり、介護予防等の啓発を行いつつ、地域サロン等での健康相談や介護予防教室等を開催していく必要がある。	②健康づくり・介護予防の実施	②パワーリハビリ教室の延べ参加者数 (R5) 参加者数 400	②パワーリハビリ教室延べ参加者数 (R3) 参加者数 206 ・コロナ禍のため定員を減らして実施。県に蔓延防止措置発令中は中止。	○	・呼びかけでも参加してもらえないケースがあったため、きっかけ作りなど参加しやすい方法を検討していく必要がある。 ・感染対策を講じ、コロナ禍の状況に注視しつつ定員を増やしていく。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者一人一人ができることを大切にしながら暮らし続けるために地域住民、ボランティア及び民間事業者などの多様な主体が連携協力し、必要な活動やサービスが得られる地域づくりが必要。	【2】地域活動・地域づくりの推進	週一回以上開催の通いの場への参加者割合 (R5) 割合 8	・週一回以上開催の通いの場への参加者割合 (R3) 割合 12.3	◎	・既にコロナ禍であっても参加割合は目標値を超える水準であるが、コロナ禍で閉じこもりがちな高齢者等の心身の健康づくりや介護予防、地域支えあいを推進するため、広報への掲載やガイドブックを作成する等で啓発し、新たな参加者の発掘に努めていく。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者一人一人ができることを大切にしながら暮らし続けるために地域住民、ボランティア及び民間事業者などの多様な主体が連携協力し、必要な活動やサービスが得られる地域づくりが必要。	【2】地域活動・地域づくりの推進 【3】認知症施策の推進	認知症サポーター延受講者数 (R5) 受講者数 3,500	認知症サポーター延受講者数 (R3) 未開催 コロナ禍のため講座開催はできなかったが、講師役のキャラバンメイトへのスキルアップ研修を実施。	○	・コロナ禍やその他要因が生じたとしても、切れ目なく開催可能な講座の方法等を、キャラバンメイトと共に検討していく。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者一人一人ができることを大切にしながら暮らし続けるために地域住民、ボランティア及び民間事業者などの多様な主体が連携協力し、必要な活動やサービスが得られる地域づくりが必要。	【2】地域活動・地域づくりの推進	いきいき百歳体操の活動グループ数 (R5) グループ数 25	いきいき百歳体操の活動グループ数 (R3) グループ数 21	○	・コロナ禍もあり新規に活動グループを立ち上げるできなかった。引き続き、立ち上げに向け行動していくと共に、現在活動中のグループには活動支援を行っていく。 ・体操を推奨するため、地域サロンといった通いの場へ出向き、
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	○高齢者一人一人ができることを大切にしながら暮らし続けるために地域住民、ボランティア及び民間事業者などの多様な主体が連携協力し、必要な活動やサービスが得られる地域づくりが必要。	【2】地域活動・地域づくりの推進	60歳以上に占める老人クラブ会員の割合 (R5) 割合 35	老人クラブ会員割合 (R3) 割合 30.9	△	・ひと昔前に比べ、就業リタイア年齢の上昇やライフスタイルの変化など、高齢者人口は多くなっているが、新規入会には結びついていない。 ・新規会員増加のため、魅力ある団体作りを心がけ、魅力ある事業を計画するなどし周知していく。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	○高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターが中心となり、利用・福祉・介護の各分野をはじめ、地域の関係機関・団体等と連携を強化しながら、切れ目のない支援をしていくことが必要。	(7)社会資源リストの作成・配布	(7)社会資源リストによる情報提供	社会資源リストによる情報提供 (R3) 未実施 R2でリスト作成、配布を行っている。 町ホームページに掲載している。	◎	・町ホームページで適時、情報を更新し継続して情報発信していく。冊子タイプは、R5に作成・配布する予定。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターが中心となり、利用・福祉・介護の各分野をはじめ、地域の関係機関・団体等と連携を強化しながら、切れ目のない支援をしていくことが必要。	(1)推進会議の開催	(1)海南海草在宅医療・介護推進連携会議	海南海草在宅医療・介護推進連携会議 (R3) 開催数 2 2回目は書面開催となったが、参加委員は連携を深められている。	◎	・今後、より一層の連携のための課題を把握するため、R4年度に医療介護専門職へのアンケート調査を実施し、課題解決に向けて取り組む予定。PDCAサイクルに沿った取り組みにて、在宅医療・介護連携を推進する。

保険者名	第8期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターが中心となり、利用・福祉・介護の各分野をはじめ、地域の関係機関・団体等と連携を強化しながら、切れ目のない支援をしていくことが必要。	(ウ)代診医制度の促進	(ウ)代診医制度の促進	代診医の登録数、依頼件数 (R3) 登録数 10 依頼件数 - 医療機関を訪問し医師との意見交換を実施。	○	・代診医の活用がない。周知が不十分な可能性があり、啓発を推進する必要がある。 ・今後も医師や医療機関の意見を十分に聴取しながら、代診医を含む連携体制を推進していく。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターが中心となり、利用・福祉・介護の各分野をはじめ、地域の関係機関・団体等と連携を強化しながら、切れ目のない支援をしていくことが必要。	(イ)連携に係るエチケット集の普及活用	(イ)多職種連携エチケット集の普及	多職種連携エチケット集の周知を実施。町ホームページから医療資源の情報を適宜更新。	◎	・エチケット集の周知を行い、ホームページにて医療資源の情報を適宜更新する。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターが中心となり、利用・福祉・介護の各分野をはじめ、地域の関係機関・団体等と連携を強化しながら、切れ目のない支援をしていくことが必要。	(オ)サポートセンターとの連携	(オ)海南海草在宅医療・介護推進連携サポートセンター相談窓口	サポートセンターへの相談件数 (R3) 件数 5 町広報誌にサポートセンターだよりを掲載し周知に務めた。	◎	・サポートセンターへの相談件数が少ないのは、当町行政窓口へ直接相談することが多いためと考えているが、サポートセンター相談窓口のより一層の周知を図りながら、また、十分に連携し相談に対応する。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターが中心となり、利用・福祉・介護の各分野をはじめ、地域の関係機関・団体等と連携を強化しながら、切れ目のない支援をしていくことが必要。	(ハ)多職種間の研修会	(ハ)多職種間の研修会	介護支援専門員・保健師等が集まる在宅連絡会を開催しており、R3では、意思決定支援についての研修を実施した。ただし、予定していた海南海草圏域での研修会はコロナ禍により実施できなかった。	○	・コロナ禍では対面研修会の開催は難しい。 ・コロナ禍や他の要因で開催できない状況でも研修の機会を設けるため、web開催等他の方法も検討し研修会を実施する。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターが中心となり、利用・福祉・介護の各分野をはじめ、地域の関係機関・団体等と連携を強化しながら、切れ目のない支援をしていくことが必要。	(キ)普及啓発講座等	(キ)普及啓発講座等の延参加人数 (R5) 相談件数 150	映画上映を企画予定していたが、県の蔓延防止措置発令に伴い中止。 「人生会議(ACP)」を実施し、21人参加。	○	・感染症対策を講じながら引き続き普及啓発を実施する。地域サロン等の通いの場での実施を推進し、より広く開催の機会を設けていく。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターが中心となり、利用・福祉・介護の各分野をはじめ、地域の関係機関・団体等と連携を強化しながら、切れ目のない支援をしていくことが必要。	(ク)関係市町村等との連携	(ク)海南市、保健所、海南海草在宅医療・介護推進連携サポートセンター等との運営会議	コロナ禍により、予定していた運営会議は実施できなかったが、適宜電話・メールなどでの相談や月1回の実績報告にて情報を共有した。また、作業部会は2回(うち1回はweb会議)開催した。	◎	・海南市、保健所、海南海草在宅医療・介護推進連携サポートセンター等の連携は図れている。引き続き連携強化を図る。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者一人一人が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう地域包括センターを中心に医療・福祉・介護や勘系機関・団体等と連携を強化しながら継続的な支援が必要。	【2】地域包括支援センターの機能強化	・総合的な相談対応件数(年) (R5) 件数 550 ・権利擁護相談件数(年) (R5) 件数 25 ・町長による成年後見申立件数(年) (R5) 件数 1	・総合的な相談対応件数(年) (R3) 件数 528 今年度から相談支援システムを導入。 ・権利擁護相談件数(年) (R3) 件数 5 ・町長による成年後見申立件数(年) (R3) 件数 1	○	・包括支援センターへの相談件数は、例年約500件で推移しており、一定の周知はなされているように思う。 12月から相談支援システムを導入したことで、相談者情報が一元化で確認できたり、統計情報が容易になったため、相談内容の傾向を分析し、きめ細かい取り組みに繋げていく。 ・権利擁護支援が必要な者に早期に気づき、繋げられるよう、ケアマネージャー等支援者を対象とした研修を実施していく。 ・相談者に対し、適切な支援が何なのかを検討するチーム作りが課題。

保険者名	第8期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者一人一人が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう地域包括センターを中心に医療・福祉・介護や勤系機関・団体等と連携を強化しながら継続的な支援が必要。	【3】地域密着型サービスの充実	・指定済みの事業所への指導等、給付適正化を図る ・ニーズを踏まえた整備の検討	・実地指導件数 (R3) 件数 1 小規模多機能型居宅介護事業所に実施。 予定していた外部評価機関による評価は、コロナ禍により未実施。 ・運営推進会議を通じて待機者を把握しているが、現状は概ね充足している。	◎	・同じサービス形態でも、サービスの質に差があるため実地指導計画をたてて定期的に実施していく。また、緊急など指導の必要性が生じた場合は早急に対応していく。
紀美野町	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者一人一人が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう地域包括センターを中心に医療・福祉・介護や勤系機関・団体等と連携を強化しながら継続的な支援が必要。	【4】生活支援体制の整備・生活支援サービスの充実	・高齢者福祉事業の継続 ・社会資源リストの更新 ・移送支援サービスの検討 ・地域で支えあうための講座の開催	・高齢者福祉事業の継続 ・社会資源リストの更新 ・移送支援サービスの検討 地域おこし活動団体による活動地域への買い物支援サービスの活動に対する支援について他課と検討・協議。 ・地域で支えあうための講座の開催 地域支えあいフォーラムを開催予定だったが、コロナ禍で翌年度に延期。	△	・地域で支えあうための講座の開催は、令和4年5月開催。
紀美野町	②給付適正化	介護保険制度の安定的な運営のため、介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要なとする過不足のないサービスを、事業者が適切に提供するように促し、適切なサービスの確保と費用の効率化を通じて、介護保険制度の信頼性を高める必要がある。	【1】要介護認定の適正化	・認定調査員の全国テスト(eラーニング)の平均点数 (R5) 平均点数 全国以上	・認定調査員の全国テスト平均点数 (R3) 平均点数 未受験	×	・R3は未受験であったが、認定調査研修を継続的にを行いスキルアップを行っているが、専任の認定調査員だけでなく、兼務の保健師職員も行うことがあるが、専任・兼務を問わず更なる質の向上に務める。
紀美野町	②給付適正化	介護保険制度の安定的な運営のため、介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要なとする過不足のないサービスを、事業者が適切に提供するように促し、適切なサービスの確保と費用の効率化を通じて、介護保険制度の信頼性を高める必要がある。	【2】ケアプランの点検	①給付適正化システムを活用したケアプランの点検・指導・評価回数 (R2) (R5) 1 2 ②町指定の介護事業所への指導等	①ケアプランの点検・指導・評価回数 (R3) 1(42件) 給付適正化システムを活用し、事業所から関係書類を徴して加算の適否を確認。 ②地域密着型サービス事業所への実地指導件数 (R3)	△	①給付適正化システムの導入から約3年が経過したが、人員不足と異動により、習熟するに至らない。業務マニュアルの作成やノウハウを蓄積し、煩雑になりがちな部分を整理し業務効率化を行っていることが課題。 ②外部評価も活用しつつ、実地指導計画をたてて計画的な指導を行うことと、その内容についてノウハウを蓄積していくことが課題。
紀美野町	②給付適正化	介護保険制度の安定的な運営のため、介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要なとする過不足のないサービスを、事業者が適切に提供するように促し、適切なサービスの確保と費用の効率化を通じて、介護保険制度の信頼性を高める必要がある。	【3】住宅改修等の点検	住宅改修、福祉用具について、ケアマネージャー等との連絡を密にし、自立支援につながるものとなっているかを確認する。	住宅改修…過去の改修履歴も踏まえ、申請全件について、必要に応じてケアマネージャーにも聴取する等、事前に必要性を確認。 福祉用具…住宅改修同様に関係者に必要性を確認。	◎	・住宅改修、福祉用具ともに事前審査や理由書等で必要性の確認を徹底しているため、利用者にとって適切な給付が行えた。また、事後の実地調査も行うことで、利用者の自立支援に繋がっているのか確認している。
紀美野町	②給付適正化	介護保険制度の安定的な運営のため、介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要なとする過不足のないサービスを、事業者が適切に提供するように促し、適切なサービスの確保と費用の効率化を通じて、介護保険制度の信頼性を高める必要がある。	【4】縦覧点検・医療情報との突合 【5】介護給付の通知	・縦覧点検・医療情報突合 (R2) (R5) 全件 全件 ・介護給付費通知発送	・国保連委託の縦覧点検・医療情報突合で、疑義がある事業所に確認は行ったが、帳票すべての確認はできていない。 ・介護給付費通知発送回数 (R3) 4	◎	(4)現在の人員体制で、全帳票とその内容を確認するのは時間的に困難であることから、効率よく効果的な帳票に絞って確認を行っている。 (5)国保連に当該通知の作成を依頼し、郵送だけでなく場合によっては利用者には確実に届くよう、事業所を通じて通知している。
紀美野町	②給付適正化	介護保険制度の安定的な運営のため、また社会的資源の継続のため介護職員の確保や災害・感染症に対応した支援・応援体制を確率する必要がある。	【6】介護人材の確保 【7】災害・感染症対策	・介護職員初任者研修受講補助金 ・事業所等における災害必需品の備蓄状況の確認 (R2) (R5) 未実施 1	・介護職員初任者研修受講補助金 (R3) 未施行 補助金要綱制定に向け、調査研究を行った。 ・備蓄状況確認 (R3) 未実施	△	・R3ではR4からの要綱制定に向け、調査研究を行った。R4から施行し、町内事業所への周知を行っていく。 ・施設に作成義務のある避難確保計画の作成状況等の確認を行う。また、適時、備蓄状況の確認も行い、有事への対応を確認していく。